

会 議 録

会 議 名	平成 2 9 年度第 2 回野田市立図書館協議会
議題及び議題毎 の公開又は非公 開の別	1 平成 2 9 年度（4 月～1 2 月）野田市立図書館事業実施 状況報告について（公開） 2 平成 3 0 年度野田市立図書館基本方針、具体的施策及び 事業計画について（公開） 3 平成 3 0 年度野田市立図書館運営数値目標について（諮 問）（公開）
日 時	平成 3 0 年 2 月 1 3 日（火） 午後 2 時から 3 時 5 0 分まで
場 所	樺のホール 2 階 興風図書館会議室
出席委員氏名	委 員 長 筒井 圭子 副委員長 河合 章男 委 員 青柳 康幸、村越 健志、山田 喜美子、石原 和子 文道 尚子、小山 祐子、鈴木 美由紀、大澤 一秋
欠席委員氏名	武井 信一
事 務 局	東條 三枝子（教育長） 杉山 一男（生涯学習部長） 寺田 幸生（興風図書館長） 染谷 尚之（興風図書館館長補佐兼図書サービス係長） 真部 仁（興風図書館庶務係長） 加藤 敦子（興風図書館図書サービス係主査） 新宮 めぐみ（南図書館長 指定管理者 T R C 野田グルー プ株式会社図書館流通センター） 関 秀隆（北図書館長 指定管理者 T R C 野田グループ 株式会社図書館流通センター） 金子 治彦（せきやど図書館長 指定管理者 株式会社図書 館流通センター） 瀬戸 英輔（指定管理者 T R C 野田グループ 株式会社図 書館流通センター）
傍 聴 者	1 名

議 事	平成２９年度第２回野田市立図書館協議会の会議結果(概要)は、次のとおりである。
興風図書館庶務係長	委員１１名中１０名の出席により会議が成立していること、会議を公開することとしていること、会議資料や会議録は市役所本庁舎及びいちいのホールの行政資料コーナーに配置していること、１名より傍聴の申出があり許可していること、会議録作成のため録音機を使用することを報告する。
筒井委員長	〈筒井委員長が挨拶を行う〉
教育長	〈東條教育長が挨拶を行う〉
筒井委員長	議題１ 平成２９年度（４月～１２月）野田市立図書館事業実施状況報告について、事務局より説明をお願いする。
興風図書館館長補佐	平成２９年度（４月～１２月）野田市立図書館事業実施状況について報告する。
筒井委員長	質問、意見などあるか。なお、議事録作成のため発言の際は氏名をお願いしたい。
大澤委員	前回、私がいろいろと意見を申し上げて、かなりそれが反映されて、利用の実態とか傾向とかが素人が見ても結構想像できるものになっているのではないかと思います。 資料を頂いてから興味を持って見させていただいた。 会議資料の４ページの分類別の貸出点数と１０ページの平成２９年度の受入数を見ると受入れというのは本を購入しているのだと思うが、４ページを見ればどういう分類のものがどれだけ動いているということが分かると思う。 それと相関して受入れがなされているのかなと見ると、必ずしもそうっていない部分もある。 気が付いたところを言えば、例えば１０ページの一番下の方にある絵本や紙芝居の受入数と４ページの貸出点数の絵本と紙芝居を合算してみると貸出数の割に受入数が少ない。 これは素人的な考えだが、もしかしたら絵本や紙芝居はともニーズがあるように見えるので、ここをもっと新しいものいろいろ入れていけば貸出数がすごく伸びるのではないかと単純に思った。

興風図書館図書サービス係主査	そういう意味で4ページと10ページは相関させながら、4ページはニーズを示していると思うのでニーズに合ったものを受入れとか除籍のところに反映させていくということをやると良いのではないかなと思う。 絵本については新しいものを追求するというよりも、これまでに出版されてきた長く良いものとして支えられてきた絵本をたくさん子供たちに読んでいただきたいということで定評のあるもの、子供が小さい頃に読んで記憶に残り、母親になってこの絵本を自分の子供にもまた読んであげたいと思われるような質の良いものを複数たくさん用意して、それを多くの子供たちに読んでいただくという方針で本を集めている。 したがって新しいものをむやみに追い求めるというよりも、子供に受け入れられやすい、しかも文学的な価値のあるもの、子供にとって例えば駄洒落とか言葉遊びとかという方向に進むものばかりではなく、文学的な方向に、読書の方に子供を導いてくれるような作品、そういうものを含めるという方針を立てているので新刊だからどんどん見せるということとはしていない。 逆に言えば新刊はこれしか入れていないのにこれだけの貸出数が出ているということは、こちらのサービスをある程度受け入れてもらえているのかなと考えている。
大澤委員	別にむやみに買えと言っているわけではなくて、現状余り買っていないのにこんなにあるのだから厳選する中でも価値観や良い作品でも時代の変化もあるだろうし、昔のものが良くて今のものが悪いということもないだろうし、そういう観点で多角的に見てこれは良いものだろうと、ちょっと斬新なものだろうとか、そういう視点でいろいろ広げていって増やせばもっと増えるのではないのかなということである。むやみにということとは言っていない。
興風図書館図書サービス係主査	全く買っていないわけではなく、出版されたからすぐを買うということではなく出版されているものの中からある程度

大澤委員	の期間様子を見ながら、この絵本は入れてもよいだろう、この絵本はあえて図書館で買う必要はないという判断をしながら、大人の本と違って子供の本はやはりその後の読書生活に対する影響が大きいと思われるので、その辺の判断を慎重にさせていただきながら購入している。新しいものだから一方的に排除するということはしていない。職員もいろいろ書店に出向いたり、出版状況を見たりしながら選書、選択をしている状況である。 了解した。今のことに関係するが、先ほどの4ページと10ページで相関という話をしたが、多分二つの考え方があって読書というところではニーズを見ながら相関をとって品ぞろえしていくというのはある程度必要だと思う。ただもう一つ、これはどう表現してよいかわからないが、調べ学習とかアクティブラーニングとかというところ、要は図書館の資料を研究するための参考書として使うような場合には多分相関は余りとらない方がよいと思っていて、これは私からのお願いだが、正直言って私は読書をしない、読書という形では図書館を利用してはおらず、調べるということでしか子供の頃から使ったことがなくて、だけどそういう人って余りいない。今の世の中どんどん逆に減っている。そういう人はどんどん除外される、ニーズが酌み入れられなくなる傾向があるので、私が図書館に求めているのは当然読書も重要だが、その一方として調べ学習とかアクティブラーニングというものも子供に対して非常に重要だと思っているので、そういったところも品ぞろえ、私から見ると古い。私が何か調べたいと思ってあるかなと思って見ると古くて、結局新しいのは千葉県立図書館にあるから借りてきてもらうとかそういう使い方になるので、確かにニーズはそうはないからそこにお金をかけるとは言えないが、だけど余りにも古いものしかないというのは避けてほしい、なんとか改善してほしいという意見である。
村瀬委員	3点ほど質問したい。一つ目は会議資料の1ページから8

興風図書館館長 補佐	ページに渡ってすごく見やすい図で数を表現されているが、これは上の表をグラフ化しただけなので、これは必要なのかなと思った。 2点目は8ページの登録者数の中で、16歳から18歳の登録者数が減っているのは受験などでという話があったが、逆に受験の時こそ図書館を使うように何か対策を練った方が良いかと思った。 3点目は15ページ、興風図書館で毎年行っているリサイクル市だが、これはリサイクルのものを持っていくのに一人何点とか団体で何点とか、そういった取り決めはできているのか。一度行った時にどこかの団体が根こそぎ持って行ってしまって個人で貰えなかったりしたので、その辺りどうなっているのかと思い質問させていただいた。 リサイクル市については、ここ数年は雑誌、図書は一人15冊まで、雑誌の付録については3点まで、両方合わせて一人18点までということで制限させていただいている。
村越委員	仮に、ある一つの団体がまとまって来られて一人何点という形でやった場合、一つのところにいくのが何十点になる可能性があるが、そういうものは特に定めとかはないのか。
興風図書館館長 補佐	団体で来ているというイメージはない。個人で毎年二百数十名の方に来ていただいている。
興風図書館長	一番目の質問の上下の表現については、数的にイメージが湧きやすくするためのものである。御意見はあるかと思うがこういう形で表現させていただいている。 それから受験生の質問があったが、野田市の図書館は閲覧席は用意してあるが受験勉強のための勉強席というものはない。図書館の参考書などを見るのであればそれは活用できるが、自分で持ち寄ったもので勉強されるということは勧めていない。そのようなことで利用が少ないということが、それだからということではない。
大澤委員	図書館の立場としては受験勉強で使うということを推奨はしていないということだが実態的には使っている。それは良

興風図書館長	い。だけどそれはどう考えればよいのか、いけないことなのか。私の息子も娘も近くだから散々使わせていただいた。 こちらからも駄目ですとはなかなか言えないということはあるが、受験勉強で使わせてもらいたいという理由で机の使用の申出があった場合にはお断りをしている。
生涯学習部長 興風図書館図書 サービス係主査	断ってはいないのではないか。 訂正する。基本的に断ってはいない。ただ推奨もしていないという形である。現状だと図書館ではヤングアダルトコーナーというものを設けて中学生、高校生向けの進路に関する図書も大分そろえてはいる。机を使っていたきながらそういった本をパラパラとめくりながら受験勉強の合間に本に親しんでいただいてもよいのかなというスタンスである。
生涯学習部長 興風図書館図書 サービス係主査	キャレルデスクは断っているのではないか。 受験勉強で占領されてしまうと図書館の資料を使って調べ物をしたいという方が席を使えないということが実際にあったため、二席だけ調べ物の専用席ということで受験勉強はお断りしている。
生涯学習部長	これは図書館界、図書館の運営者側からすれば古くて新しい課題で30年くらいずっと課題のままとなっている。そういった中で学生室という部屋を作ってしまったて、そこへ受験生を囲い込む、そこへ来ていただく、ということをやっている図書館もあるし、逆に私どもみたいに閲覧席で一般も学生も一緒に早い者勝ち。ただし、今申し上げたように逆に夏休み期間中になると受験生が一杯来てしまつて調べ物をしている人達が資料を広げる場所がないという苦情も多々頂く。そのようなこともあり先ほど申し上げたキャレルデスク二席は純然たる調べ物用ということでやっている実態がある。受験生の利用が指標の持ち方としてどうかということはあるが、必ずしも登録にはつながってこない。貸出しには結び付かない。来館者の利用には結び付くが私どもが指標としている貸出しは結び付かないという痛し痒しがあるし、逆を言えば来館だけでも構わない、入館者という話でも利用の増につなが

大澤委員	っていくのでそれはそれでいいのだが、その辺の兼ね合いが非常に難しいので、村越委員のおっしゃっていることも分かるし大澤委員のおっしゃっていることも非常によく分かるという現状の中で、バランスをうまくとりながら、とれているのかというと非常にいろいろ苦情を頂くこともあるのだが、バランスをとりながらやっているというのは実際の運営である。ただ、興風図書館としてはなるべく多く閲覧席を設けて多くの人が滞在できるように設計上は考えてあり、それで運営させていただいているのが現状である。 私の息子と娘から聞いていることを申し上げますと、勉強ができなくて困ったという苦情はなかった。暑いとか暗いというのはあったが。確かにバランスが難しいというは分かる。排除はしていないということで非常にいいなと思った。なぜいいかというと、子供の時に地域の図書館に限らず公民館もそうだと思うが、そういった施設を使っていたか使っていなかったかで大人になって以降の地域への愛着とかそういうところにも影響すると思う。私は子供の頃は全然図書館を使っていなかった。大人になってから移転前の図書館を30歳くらいの時に初めて使ったくらいで、反省している。
河合委員	客観的には言えないが私が見た限りでは受験勉強に関しては野田市の図書館は実践的にうまくバランスをとっていると思っている。近隣でも排除して議会で問題になったところがある。完全に排除してしまって受験生は使わせない。閲覧室の狭い図書館が近くに一杯ある。そういう意味でいうとうまくやっていると思う。 ただ、現状を見るともうちょっと来てもらった方がいいかなというくらいの感じである。南図書館は南コミュニティ会館のラウンジのスペースで勉強している子が一杯いて、あれは図書館のカウントには入っていないと思う。複合施設として、何にでも使っていい空間がある施設の良い点として、はみ出た子供たちが受験勉強にフリースペースを使っているというがあるので、あれが多分自由で理想ではないかなと私

筒井委員長 北図書館長	は思っている。今、野田はうまくいっている方ではないかと思う。 それからもう一つ、12歳と13歳の違いが学校図書館で問題になっていて、子供の発達段階で言うと12、13歳くらいまでが多読期で、そこから興味が分かれていくという段階と昔から言われていて、それがここ40、50年変わっていない。本当は子供たちの発達段階が早くなっているのに、変わるべきと思うのだが変わっていない。なぜかというところ中学2年生になると部活が本格的になる、受験勉強も始まるという社会状況があるので、仮説ではあるが発達段階が逆に固定されているのではないかと。だから中学2年、3年の子にもうちょっと親しんでもらうという意味では、受験勉強に開くという手もむしろあるのかなと。そこで図書館から離れてしまう。段々と子供の頃は絵本を読んで、小学校は多読期で、中学1年までは来るのだけれども、2年生になるともうちょっと時間がなくて来られなくなる。それを受験勉強でつなぐという手はあるのかなと個人的な感想ではあるが少し思う。 12ページのところに南図書館と北図書館でヤングアダルト図書館サポーターの活動が載っているが、これは多分中学生の子供が図書館を利用するためにこういうサポーターを設けられたと思うのだが、この活動がどの程度有効に行われているのかということ詳しく伺いたい。この辺から中学生の利用の突破口が開けてくるのかどうかということをお話いただければと思う。 北図書館では2週間に1回、ヤングアダルト図書館サポーターということで中学生、高校生に参加を呼び掛け、主に北部中学校の3年生の子が毎回2、3人参加していただいているが、参加者は固定しており図書館利用が促進されているかどうかは、またちょっと別の問題である。よく来る子が図書館好きが高じて更に図書館が好きになるというところで、全く利用しない子の促進ができたかどうかはちょっと疑問がある。好きな子が更に好きになっているというのは間違いない
---------------------------	---

生涯学習部長	ので有効かなと思う。 ヤングアダルト図書館サポーターについては指定管理者にやっただいていいる事業であるが、こちらとしても関心を持って見ており、結局は図書館の裏方をちょっと手伝っていただいている、運営を手伝っていただいているというのが実態であるので、そういう意味では利用ということではない形であるが、そういったものに興味を持っていただければ利用にもつながっていくだろうし、輪が広がっていくかなというところで評価をしている事業である。そういった意味では今やっているのは中学生だが高校生くらいまで輪を広げていければ利用の少ないところに結び付くところもあるのかなと、そういうところを評価してどうしようかなくらいの相談はしているところである。
大澤委員	1 ページ目の貸出点数の説明の中で、一人当たりの見込数とかその辺で少ないのは登録者が少ないからという説明をされたが、多分違うのではないか。要は中央、南部、北部、ちょっと表現が難しいのだが、そこに住んでいる方の意識とかなんというのか表現が難しい。なんて言えばよいのか学力とか、そういった言わんとしていることはお分かりになると思うが、そういうところがきつと出てくるのではないか。先ほどの登録率なども同じである。特に北部が非常に高い。何か違う意味があるのだろうとちょっと思う。そういったところをもう少し分析してやると、地域の文化レベルにまで発展する話になり得るのではないか。何となくであるが、そういう意見である。
河合委員	すごく大事なことで、そこはタブーにはしてはいけないと思っている。ただ言い難いところである。だけど図書館は多分逆なのだと思う。つまりアメリカでカーネギーがなぜ図書館を使ったかという、自分は学校を出ていないのにとということであった。つまり学歴が十分でなかったからその分社会に出てから勉強したいということが本当は出発点にあったのに、何か今言われていることは結果としてそうになっている。

大澤委員	結果として読めるから、読める人が来ているという形になっているが、図書館はそうではなかったはずである。学校に行けなかった方が来るという方が何か根源にあったような気がするので、そこはタブーにしないで何か考えなければいけないところであろうと私も思う。 関連して意見になるが、先ほど会議が始まる前に私的に野田ものの知り検定の冊子をお配りしたが、昨日と昨年の11月頃に検定の体験会を行った。場所は櫛のホールのエントランスホールと、昨日は中央公民館でやっていたのだが、小学校の1年生、2年生、3年生という低学年は余り字も読めないだろうから解けないかなと思っていた。余り対象にしていなかったのだが構わないから声を掛けてやらせてみると、櫛のホールで行った時にサンプルが少ないので断定はできないが、小学校1年生の女の子2人が図書館に来て10冊も20冊も借りて帰るような子は1年生でもすらすら読んで答える。ところがそうではない子はもう全然読めない。問題に取り組もうという気も起きない。何を言わんとしているかという、読書をするというのは本当に学力につながるのだなと、何となく重要さを肌で感じた。
筒井委員長	ほかに御質問がないようであれば、ただ今説明のあった平成29年度（4月～12月）野田市立図書館事業実施状況報告については、報告事項なので御了承をお願いしたい。 続いて、次の議題に入る。 平成30年度野田市立図書館基本方針、具体的施策及び事業計画についてを議題とする。 事務局より説明願いたい。
興風図書館館長 補佐 南図書館長 北図書館長 せきやど図書館長	平成30年度野田市立図書館運営基本方針、興風図書館の具体的施策及び事業計画について説明する。 南図書館の具体的施策及び事業計画について説明する。 北図書館の具体的施策及び事業計画について説明する。 せきやど図書館の具体的施策及び事業計画について説明する。

筒井委員長	御質問、御意見などあるか。
河合委員	以前に比べて図書館のホームページが大変格好良いものとなっており、新着図書が次々に出てきたりするようになって いるが、図書館の独自ではないから資料には出てこないのか。ホームページについては具体的施策の（１）興風図書館の②資料、情報提供機能の充実のところに検索や予約については例年通り出ているが、広報事業のような項目が計画にも報告にもないので、ホームページに関しては市の事業ということになるのか。
興風図書館長	情報提供機能の充実ということで挙げさせていただいている。インターネットで検索する方も予約は全体の７割程度までになっており、図書館のホームページからほとんど入っている ので、ホームページの見栄えを職員も気にしており随時新たに 見直しを図っている状況である。また、お知らせすることも随時 入れている。確か昨年の夏だったと思うがホームページのレイアウト もかなり変えたりしており、そのようなことで職員と業者とで行っている。
河合委員	大変素晴らしくなっているので、それが資料に出ていない というのはちょっともったいない気がした。図書館でやられている ことであれば、今回はこれで良いが次回から広報事業とか情報提供 とか何か項目を立てて、あれだけ充実しているのであれば何か書か れた方が良いのではないかと思います。格調高くしかも具体的にな っているので感心した。
興風図書館長	基本方針の方で触れており、そちらの方で賄えたと思っ ていたが、もう少し表現しても良かったかなと思っている。
河合委員	そうすると、あれも付け足してくれとこちらも言いやすくなる。
大澤委員	直接関係するかどうかは分からないが、今の情報系の話で 図書館と学校図書館と博物館の蔵書の管理を一元化できないの かなと。別の観点であるが先ほどせきやど図書館長から関宿城 博物館と連携うんぬんという話もあったので。そもそも図書館 法などを見ても、法の中に学校、博物館、公民館、研

鈴木委員	究所などと緊密に連絡し協力することということが書いてある。もっと積極的に情報の管理、図書館でいえば蔵書、博物館でいえば資料、一元管理をして利用しやすいように、要は博物館の資料も利用するものであるのもので、そうことをやるべきではないかなと常々思っていて、5年くらい前にそういう意識が高い博物館の学芸員がいたので、博物館の蔵書を全部整理し直してきれいにしたのだが、データベース化はほとんどしていない。エクセルに入っているだけ。非常にもったいない。よそを見ると5年、10年以上前の時点で古河市、あそこは市町村合併になっているが、図書館と資料館の資料を全部一元管理できていて検索ができる。図書館の検索システムであるオーパックをそのまま使ってやっている。だからできない話ではないはずなのだが、5年くらい前にそれを博物館に提案したら社会教育課の方からできませんという回答を頂いたので、もっとその辺を情報基盤として、要は市の資産であるのもっと有効活用できるようにしていくべきではないかなと思っている。これも要望である。すぐにできる話ではないと思う。 せきやど図書館の話を聞いて、丁度指定管理をされた時に閑宿に図書館ができたからというので私も調べ物に行った。その時に対応がすごく良くて、調べ物をする時にこんな対応をしてもらって良いなと思ったことを、話を聞きながら思い出した。それから何年か経って利用者が段々減っているというので、先ほども北図書館の利用者の話が出ていたと思うが、せっかくきちんと図書館ができて受入れ態勢もたくさん整っているのに利用者がいないというのはとても残念だなと思いを聞いていた。やはり子供さんだけでなく大人というか、お母さん達も巻き込まないと多分利用してくれないのではないかと考えている。 それでこの事業計画なり今までやってきた中で、大人のためのおはなし会とか大人のための調べ物という講座があるが、そういうものをもう少し子育て中のお母さん、子育て中
------	---

	のお母さんは仕事をしている人が多い。大人のためのおはなし会というのをほかの図書館でどんなことをやっているのか調べたところ、結構遅い時間にやっていたりする。だからどうしても図書館の開いている時間は決まってしまうので、1年に何回かでも良いので子育てしていて仕事をしているお母さん達のための何かそういうものもあっても良いのではないかなと思う。それから大人のためのお話しなので、大人がちょっと興味をそそるような内容にして、子供だけではなくて大人もちょっと図書館へ行って得したなというものがあればいいのかなと思う。
せきやど図書館長	参考にさせていただく。図書館へ来てほしい年代の子供さんを持つお母さんは、例えばおはなし会への興味が薄いなどいろいろなことがあり、私は赴任してまだ4年であるが、何とか打開策を講じなければと日々いろいろなことを考えながらやっている。
鈴木委員	確かに大人の方を呼んでおはなし会をしたりと、南図書館ではそういったことをかなりやっていて、また利用者もそういう方が非常に多いので羨ましく思っているが、実際まだやっていないので、平成30年度はうちの方の業務責任者と考えてやってみたいと思う。
大澤委員	子育て中のお母さんは情報が結構ぱっと広がるので、誰か一人、何人かを巻き込んでしまうと、面白かったから行ってみましょうということになる。おはなし会に子供を置いてお母さん達はどこかに行ってしまうという人もいるが、そうではなくて今日は自分達もというようなところでやればいいのかと思う。 今の話の中で調べるということをおっしゃったと思うが、学校の方では調べ学習に力を入れていると思うが、そういう観点で宿題を出してそれに合うような図書を各図書館がちゃんと用意しておいて、それを使って子供と親とで一緒に調べ学習をしましょうと。それを図書館の方で情報の調べ方というものを教えながら。そういうものは図書館でやっていると

文道委員	思うが、それを学校の教育とちゃんと連携した形で何かやっていくと、おっしゃっていたようにお母さん方を巻き込んで図書館を使っていくというようなことが推進できるのではないかとちょっと思った。 図書館を利用するものは自分の趣味と文庫本がほとんどののだが、こちらには皆さんから苦情が来ていないかもしれないので私だけの意見なのかもしれないが、文庫本が置いてあるところは天気の良い日は良く見えるのだが、雨の日など天気が悪いと本当に字が見えない。私は小さい懐中電灯を持っていって探すのだが、自分の読もうとしている本が見つからないと、いいや、じゃあこれと一人の作家の本を2、3冊まとめて借りてくることもある。私達の年代では文庫本はニーズが多いと思うが、よく皆さん我慢しているなと思うくらいである。近隣のほかの図書館は流山市の森の図書館くらいしか行ったことがないがもっと明るい。そういう苦情は今までないのか。
興風図書館長	確かに夜とかは暗いと言われたことはある。それで三波長の明るい蛍光灯に変えた時もあった。東日本大震災の時に全体的に節電という風潮の中でこの図書館もワット数を抑えて蛍光灯を換えたのでそのままになっているものもあったが、今は元に戻している。いかんせん構造的な問題もあり、樺のホールの施設を管理しているところと話をしてもなかなか折り合わない。図書館の照明は蛍光灯を裸で設置しておらず、格子のカバーを付けて見栄えを良くしているが、そのおかげで逆に見えにくくなっている。それを外すことはできないかといろいろと話をしているが、安全上できないということである。
文道委員	文庫本のところは小さい電球である。
興風図書館長	あれも光量はかなり高いのだが、かなり深いところに設置されているので拡散していかない。
文道委員	分かりました。
大澤委員	シニアだけではなくて私の子供も暗いと言っていた。暗い

筒井委員長	という話が出たが、ほかの市の施設、中央公民館などを見ると電球色で暗い。あれも何とかならないかと昨日も市民活動支援センター長と話をしたのだが。文庫本のところの電球という話をしていたので、やはりＬＥＤ化を進めるべきではないのかと私は思う。蛍光灯タイプのもので今はＬＥＤがあるし消費電力は半分である。ランニングコストという面でも電気代は半分になる。実際に私は自分の家もどんどんＬＥＤ化しているが明らかに電気代は安くなる。４０％減とかに実質なるのでランニングコストは下がるし、やはり白系の色の方が明るいので、やっていくべきではないのかなと。財政厳しい中ランニングコストを下げるということは非常に重要なことなので是非お願いしたい。 そういう御意見をお含みいただいて事業計画の方を進めていただきたいと思う。 皆さん、ほかに御意見、御質問がないようであれば、議題２の平成３０年度野田市立図書館運営基本方針、具体的施策及び事業計画については、了承をお願いしたい。 続いて、次の議題に入る。平成３０年度野田市立図書館運営数値目標について（諮問）を議題とする。
興風図書館長	事務局より説明願いたい。 それでは平成３０年度野田市立図書館の運営数値目標について諮問する。 野田市立図書館協議会委員長、筒井圭子様 野教生興第５５号、平成３０年２月１３日、野田市立興風図書館館長、寺田幸生 下記のことについて、図書館法第１４条第２項の規定に基づき諮問する。 平成３０年度野田市立図書館の運営数値目標を次のように定める。 市民一人当たりの個人貸出点数を７．０冊とする。 市の人口に対する個人貸出利用登録率を３４％とする。 （興風図書館長より筒井委員長へ諮問書が手渡される）

筒井委員長	ただ今、興風図書館長より平成30年度野田市立図書館の運営数値目標について諮問があったが、このことについて事務局の方から説明願いたい。
興風図書館長	目標数値の設定理由について説明する。
筒井委員長	ただ今の説明について質問又は意見などはあるか。
村越委員	図書館学校はどんなことを具体的に計画しているのか。
興風図書館長	先ほど申し上げた図書館学校は興風図書館が今年から始めた事業である。その前にせきやど図書館の方でもやっているが目的が違って、今年から始めた興風図書館の事業は、図書館から遠方にある学校の生徒の生活圏に図書館がないということがあったので、親御さんは借りるのでしょうけれどもなかなかお子さんは直接自分で図書館カードをカウンターに出して借りるという機会は少ないのではないかとということもあって、できる限り小さい頃から図書館に出向いてもらい、図書館はどういったところなのか自分で貸出しなどを体験してもらうことによって、図書館の利用というものも芽生えてくるのではないかとことを考えて始めた事業である。内容については図書サービス係主査より補足させていただく。
興風図書館図書サービス係主査	今年度実施したのは福田第一小学校の一枚で、1、2年生に興風図書館へ来ていただいた。事前に保護者の方々に文書を発行してあらかじめ図書館のカードを作っていただいた。子供たちにそのカードを持って図書館に来ていただいて、その時には市のバスを手配して福田第一小学校までの送迎をこちら側で行った。来ていただいた上でクイズ形式の利用説明であるとかミニおはなし会で読み聞かせと昔話を体験してもらい、それから興風図書館で実施している科学あそび教室のミニチュア版を実施した。更に自由読書の時間を設けて気に入った本は借りて帰ってもらう。できれば返却の時に保護者の方が来てくれるといいなという陰の目的もあったが、そのような形で実施した。こちらで呼び掛けたのは図書館から遠い遠隔地にある小学校である。平成30年度に向けてその準

村瀬委員	備も既に始めている。関宿小学校、川間小学校、東部小学校、福田第一小学校、福田第二小学校に文書を渡して来年度の希望を伺ったところである。
興風図書館図書サービス係主査	もし可能であればその中に学校の図書室をもっと使うように、推進するような呼び掛けはしているのか。
村瀬委員	今回はそのようなことはしていない。
生涯学習部長	子供の頃全然本を読まなかったのだが、子供の頃に学校の図書室をもっと利用していれば図書館ももっと子供の頃から利用できるのではないかという気持ちになった。子供の頃、家は関宿なのだが図書館が遠かったりなかったりしたので、学校の図書室でまず本に興味を持つようにすれば図書館にこれから興味を持つのかなとちょっと思った。学校の図書室が子供たちの基本なのかなと思ったところである。
大澤委員	学校図書館の運営につきましては学校教育部の所管になるが、我々も子供たちの読書の動機付けにおいては村越委員がおっしゃられたように学校図書室が非常に重要なことだと考えている。それから学校教育部の方でもそういう認識でいるので、今後連携して学校図書室の利用も図っていただけるようにやれることはやっていきたいと思っている。 また意見となるが、数値目標については多分減少傾向でいくというのは止められないのではないかな。こんなことを言うと元も子もないのかもしれないけれど、結局これは今の若い人達がテレビを見ないというのと次元は違うが同じだと思う。実際に今の子供たちは漫画にしたってスマートフォンで見る時代になってしまっているんで、リアルな本という物の存在がどんどん薄れていってしまっていて、多分20年、30年のスパンで考えるともうどうしようもないのではないのかなという気がする。だけど本を読むという行為そのものの重要性は変わらない。その形が変わっていく時代なのだろうなと。数値は気にしなくていいとは言わないが、余り数字を追っても意味はないのではないかなという気がする。実際にどういうよ

興風図書館長	うに教育に役立てていくか、学力向上に役立てていくかとか、そういう視点の方が良いのではないかと。何冊貸し出しているとか、利用者登録しているとかという問題ではないのではないかと何となく思うようになってきた。まあ今後の長期的な話として。 数値目標については確かに近隣の市では図書館協議会に諮っているようなところはなかった。ただ野田市の図書館協議会は前からこの数値目標を掲げていて、私も申し訳ないがここで諮問して答申をいただくということまで、総合計画にも謳っているのでどうかなとは思いますが、ただ従来からやっていることなので毎年やっていることもある。今後本当にその辺のところで必要かどうかということを考えながら、これについては詰めたいと思っている。
筒井委員長	長期的な見通しはとりあえず持っていただくとして、当面のこの平成30年度の運営数値目標についてお諮りしたいと思う。 諮問のあった平成30年度野田市立図書館の運営数値目標について、原案どおり決定することを承認してよろしいか。 (了承する声有り) 御異議がないので、野田市立図書館協議会として、原案どおり決定することを承認することとする。 それでは、答申する。 平成30年2月13日、野田市立興風図書館館長、寺田幸生様 野田市立図書館協議会委員長、筒井圭子 平成30年度野田市立図書館の運営数値目標について(答申) 平成30年2月13日付野教生興第55号で諮問のあったことについては、原案どおり決定することを適当と認める。 (筒井委員長より興風図書館長へ答申書が手渡される)
筒井委員長	これで本日の議題は全て終了したが、事務局から何かあるか。

興風図書館長	報告事項が2件あるので、報告させていただく。 1件目は、市報や図書館ホームページ及び館内掲示でお知らせしているが、2月19日（月）から24日（土）までの6日間、蔵書特別整理のため市内4館全ての図書館が休館となるので、市民の皆様には御不便をおかけするが、御理解のほどよろしくお願ひしたい。 2件目は、雑誌スポンサーの応募状況について御報告させていただく。 平成29年度は、12月末現在で2社より雑誌4誌に対してスポンサーをお引き受けいただいている。 前年度と比較すると、スポンサー数が1社減少している。 平成30年度のスポンサーとなっただいていいる2社については、引き続き今後もスポンサーを引き受けていただけるようお願ひしてまいりたい。 また、新たなスポンサーをお願ひするため、平成30年度の雑誌スポンサーの募集については、市報及び市のホームページでこれから募集の案内を行ってまいりたい。 今後も雑誌スポンサーの拡大を進めるとともに、更なる増収を目指していきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。
筒井委員長	ただ今の報告について御質問があればお願ひしたい。
大澤委員	雑誌スポンサー2社の具体的な会社名を伺いたい。
興風図書館長	図書館のホームページに掲示している。株式会社千秋社と東京理科大学である。
大澤委員	分かりました。
筒井委員長	そのほかにはあるか。
	（委員から質問を求める発言無し）
筒井委員長	それでは、これで野田市立図書館協議会を閉会する。